

国際シンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2017in 箱根」 結果概要

国内外から有識者を招聘し、個人の行動変容を促す「未病指標」のあり方や未病改善を支える社会システムについて議論を行った。

また、WHOが主導する「エイジフレンドリーシティ」（高齢者に優しい都市）のネットワークに、県内19市町（別紙1参照）が参加することになり、WHOから参加承認証明書が授与された。

- 1 日時 平成29年10月20日（金）～21日（土）
- 2 場所 湯本富士屋ホテル
- 3 主催 ME-BYO サミット神奈川 実行委員会（県、市町村、アカデミア、企業）
- 4 後援 内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、
公益社団法人神奈川県医師会、一般社団法人神奈川県歯科医師会、日本経済新聞社、
読売新聞社、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）、一般財団法人バウンダストリー協会
- 5 協賛 43社
- 6 参加者 招聘者、協賛企業、アカデミア・関係団体、行政、県民等 延べ520名
- 7 内容 別紙1 のとおり
①未病指標構築、②人材育成、③情報活用、④行動変容の視点で4つのセッションを行い、知事がモデレーターを務める総括セッションで、実行委員会として「ME-BYO 未来戦略ビジョン」（別紙2）を採択した。

【「ME-BYO 未来 戦略ビジョン」の概要】－「スマイル100歳社会」の実現に向けた総力の結集－

1 目指すべき未来社会

いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる「2025年問題」を見据え、すべての世代が元気で自立したライフスタイルを実践し、100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会（「スマイル100歳社会」）を目指すこととした。

2 新たな社会システムの創出に向けて

個人が日常生活の中で多様な商品・サービスを主体的に選択して未病を改善する「未病改善システム」を構築するための4つの視点を提示した。

3 プレーヤーの役割と行動目標

未病改善システムの構築に向けて、個人、企業、専門家、アカデミア、自治体、国、国際機関がそれぞれ果たすべき役割と行動目標を整理した。

8 今後の対応

- ・「ME-BYO 未来 戦略ビジョン」で示した目指すべき未来社会の実現に向けて、県として戦略を策定するとともに、各プレーヤーに対する働きかけと連携の強化を図る。
- ・エイジフレンドリーシティの参加承認を受けた19の市町に対して、行動計画策定に向けた支援を行うとともに、参加市町村の拡大を図っていく。

国際シンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2017 in 箱根」プログラム

平成 29 年 10 月 20 日 (金)

(敬称略)

10:00～10:35	<p>開会 開会挨拶 松本 洋一郎 実行委員長、国立研究開発法人理化学研究所理事 黒岩 祐治 名誉実行委員長、神奈川県知事 来賓挨拶 佐藤 光 神奈川県議会議員 ビデオメッセージ 厚生労働大臣 加藤 勝信 ビデオメッセージ 日本医師会長 横倉 義武 ビデオプレゼンテーション スタンフォード大学 麻酔科部長 Ronald G. Pearl</p>
10:40～11:00	<p>基調講演 大谷 泰夫 実行委員会委員、神奈川県参与、元内閣官房参与、 一般社団法人日本健康生活推進協会理事長</p>
11:00～11:30	<p>特別講演 座長 松本 洋一郎 実行委員長 演者 Anarfi Asamoah-Baah 前WHO事務局次長</p>
11:30～12:00	<p>特別講演 座長 土屋 了介 地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長 演者 向井 千秋 東京理科大学特任副学長</p>
12:00～12:20	<p>WHO エイジ・フレンドリーシティ参加承認証明書授与セレモニー</p>
13:15～13:30	<p>ランチタイムプレゼンテーション 光吉 俊二 東京大学大学院医学系研究科 特任研究員 徳野 慎一 東京大学大学院医学系研究科 特任准教授</p>
13:30～14:00	<p>特別講演 座長 竹内 正弘 北里大学薬学部臨床医学(臨床統計学)教授 ハーバード大公衆衛生大学院アソシエイトプロフェッサー 演者 山海 嘉之 筑波大学大学院 教授 CYBERDYNE 株式会社 代表取締役社長/CEO 内閣府 ImPACT 革新的研究開発推進プログラムマネージャー</p>
14:00～16:00	<p>セッション①「ME-BYO の可視化と科学的エビデンス」 モデレーター 鄭 雄一 東京大学大学院工学系研究科・医学系研究科教授 パネリスト 阿部 啓子 東京大学名誉教授・大学院農学生命科学研究科特任教授 (地独)神奈川県立産業技術総合研究所グループリーダー 小林 弘幸 順天堂大学医学部教授 森 妹子 味の素(株)アミノアセス統括部アミノインテックスグループ長 山崎 力 東京大学医学部附属病院臨床研究支援センター長 Islene Araujo de Carvalho WHOエイジング・アクト・ライフコース部政策戦略シニアアドバイザー Lee Jen Wei ハーバード大学公衆衛生大学院 生物統計学教授</p>
16:20～18:20	<p>セッション②「ME-BYO と人材育成」 モデレーター 鈴木 寛 文部科学大臣補佐官、東京大学公共政策大学院教授、 慶應義塾大学教授 パネリスト 木曾 誠一 株式会社生命科学インスティテュート代表取締役社長 國領 二郎 慶應義塾常任理事 日色 保 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社代表取締役社長 Sarah Louise Barber WHO健康開発総合研究センター (WHO神戸センター) 所長 Vish V. Krishnan カリフォルニア州立大学サンディエゴ校教授</p>
18:40～20:30	<p>レセプション</p>

平成 29 年 10 月 21 日 (土)

9:30 ~11:30	<p>セッション③「IOHH でつくる ME-BYO ヘルスケア」</p> <p>モデレーター 辻野 晃一郎 アレックス株式会社代表取締役社長</p> <p>パネリスト 遠藤 謙 株式会社 X i b o r g 代表取締役社長 ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイトリサーチャー</p> <p>久野 譜也 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授 株式会社つくばウエルネスリサーチ代表取締役社長</p> <p>渋谷 闘志彦 総務省情報流通行政局情報流通高度化推進室長</p> <p>水野 敬 国立研究開発法人理化学研究所 健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム健康計測 解析チーム/新規計測開発チーム チームリーダー</p> <p>山本 雄士 株式会社ミナケア代表取締役 Mayoran Rajendra セネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク リューションアーキテクト</p>
11:50~12:20	<p>ランチタイムプレゼンテーション</p> <p>堀口 賞一 株式会社 NTT ドコモ サービスイノベーション部</p> <p>岸 暁子 東京大学医学部附属病院 臨床研究支援センター/糖尿病・代謝内科</p>
13:00~15:00	<p>セッション④「ME-BYO と行動変容」</p> <p>モデレーター 塩澤 修平 慶應義塾大学経済学部教授</p> <p>パネリスト 梅原 薫 三島市副市長</p> <p>桜井 洋二 東京海上日動あんしん生命保険株式会社常務取締役</p> <p>佐原 康之 厚生労働省大臣官房審議官</p> <p>中村 丁次 神奈川県立保健福祉大学学長</p> <p>Finbarr Martin EU 老年医学会 (EUGMS) 次期会長、 ガイズ・アンド・セントトーマス NHS 財団トラスト名誉コンサルタント、 キングスレッジロンドン名誉教授</p>
15:00~15:30	休憩
15:30~16:30	<p>総括セッション「ME-BYO 未来社会の創造に向けて」</p> <p>モデレーター 黒岩 祐治 名誉実行委員長、神奈川県知事</p> <p>パネリスト 塩澤 修平 慶應義塾大学経済学部教授</p> <p>鈴木 寛 文部科学大臣補佐官、東京大学公共政策大学院教授、 慶應義塾大学教授</p> <p>辻野 晃一郎 アレックス株式会社代表取締役社長</p> <p>鄭 雄一 東京大学大学院工学系研究科・医学系研究科教授</p> <p>松本 洋一郎 実行委員長、国立研究開発法人理化学研究所理事</p> <p>宮田 俊男 神奈川県顧問、日本医療政策機構理事、厚生労働省参与</p>
16:30~16:40	<p>閉会</p> <p>閉会挨拶 山口 昇士 副実行委員長、箱根町長</p>

エイジフレンドリーシティ」参加承認団体

横須賀三浦地域 横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町

県央地域 大和市

湘南地域 藤沢市、伊勢原市、大磯町

県西地域 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、
真鶴町、湯河原町

ME-BYO 未来 戦略ビジョン

— 「スマイル 100 歳社会」の実現に向けた総力の結集 —

平成 29 年 10 月 21 日

ME-BYOサミット神奈川実行委員会

日本は、現在、人類がかつて経験したことのない「超高齢社会」を世界に先駆けて迎えています。

超高齢社会は、グローバルな課題になっており、今後、日本がどのように対応していくか世界中の注目が集まっています。

今の時代を生きる私たちが、しっかりと未来に向けた行動を起こし、持続可能な新たな社会システムを創り出すことで、次の世代に明るい未来をもたらしていくことができるはずです。

私たちは、2年前、ここ神奈川・箱根の地で、未病の考え方を基軸とした新たなヘルスケア社会システムのあり方について議論を行い、「未病サミット神奈川宣言」をとりまとめ、具体的な取組みを進めてきました。そこで提唱された「未病コンセプト」は、本年2月、国の「健康・医療戦略」にも盛り込まれ、社会のあり方を変えようとするところまで広がってきました。

まさに、今こそ、私たち一人ひとりはもちろん、企業、アカデミア、行政をはじめとした多様な主体が、それぞれの役割をしっかりと考え、具体的な行動を起こしていくときです。

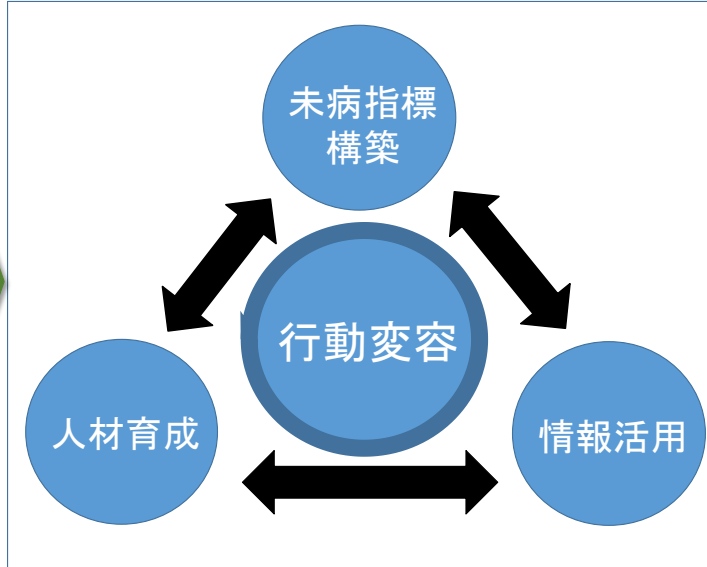
私たちは、再びこの神奈川・箱根の地に集い、これまでの2年間の取組みの進展を踏まえ、100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会（「スマイル100歳社会」）を2025年の目指すべき未来社会に位置づけ、エビデンスに基づき、個人の行動変容を促す「未病指標」のあり方や未病改善を支える社会システムについて議論を行いました。

そして、各プレイヤーの役割と行動目標を定め、共通の認識を持って行動していくための戦略ビジョンをとりまとめ、実行していくことを確認しました。

持続可能な新たな社会システムの創出

2025年 目指すべき未来社会

バックキャスト



行動目標

個人

企業

専門家

アカデミア

自治体

国

国際機関

1 目指すべき未来社会

いわゆる団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となることに伴う「2025 年問題」が迫ってきています。超高齢社会の課題が一気に顕在化し、現在の社会システムを据え置いたままでは、医療や介護などの基幹的制度の崩壊が危惧されます。

未来社会を、現在の社会システムを据え置いた場合の「懸念される未来」と、新たな社会システムを創出した場合の「あるべき未来」の 2 つに分けて描いてみました。

私たちは、この「あるべき未来」を「目指すべき未来社会」として行動していかなければなりません。

(1) 懸念される未来

- 2025 年には高齢化率が 30.3% となり、高齢者の虚弱化や認知症が増加。社会保障費は 2012 年比で 1.4 倍(約 150 兆円)に膨らむと予測
- 生産年齢人口の減少により、消費市場も縮小。生産年齢人口の負担が増加し、財政破綻リスクが高まる。
- 労働力不足による過剰労働が顕在化し、食生活等を主因とした生活習慣病や過剰労働等のワークスタイルによる精神疾患が増加
- 地域コミュニティが崩壊し、地域社会から孤立した高齢者が増え、引きこもりによる孤独死も増加

(2) あるべき未来 (2025 年の目指すべき未来社会)

- すべての世代が元気で自立したライフスタイルを実践し、100 歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会(「スマイル 100 歳社会」)

ライフステージの転換

高齢者という概念(年齢による区分)が変わり、生涯にわたる学びと社会参加を通じてアクティブな人生を送ることができる。

個人・生活の場が主役に

未病の状態や将来の疾病リスクなどが見える化でき、専門家や行政のサポートのもとで、個人が未病改善に向けたサービス等を主体的に選択している。

切れ目ないサービスの提供

健康・医療情報等の活用により、生涯を通じて切れ目のない医療・介護・健康づくりサービス等を受けられる。

最先端の医療や技術が身近に

最先端の高度な医療や技術が身近になり、気軽に活用でき、自立した生活機能の確保に役立つことで、健康生活の質の向上につながっている。

生活の利便性の向上

IoT、AI、ロボットなどの技術革新により、人口減少の中で不足する労働力が補われることで、支える世代の負担も軽減され、生活全体の利便性も高まっている。

2 新たな社会システムの創出に向けて

2025年の目指すべき未来社会を実現するためには、既存のシステムに加えて、健康行動がコストではなく、未来への投資との考え方を基本に、専門家や行政のサポートを受けながら、個人が日常生活の中で多様な商品・サービスを主体的に選択して未病を改善する、行動変容を支える持続可能な新たな「未病改善システム」を構築する必要があります。そのためには、個人、企業、専門家、アカデミア、自治体、国、国際機関など、多様な主体が一体となって行動していかなければなりません。

そこで、そのために必要な取組みを特に重要な4つの視点から検討しました。

2025年の目指すべき未来社会に向けた4つの視点

【視点1：未病指標構築】

- 未病の状態や将来の疾病リスクを個人レベルで見える化する「未病指標」の構築や、未病に関わる商品・サービスの安全性を担保し有効性を明らかにする仕組みづくり

【視点2：人材育成】

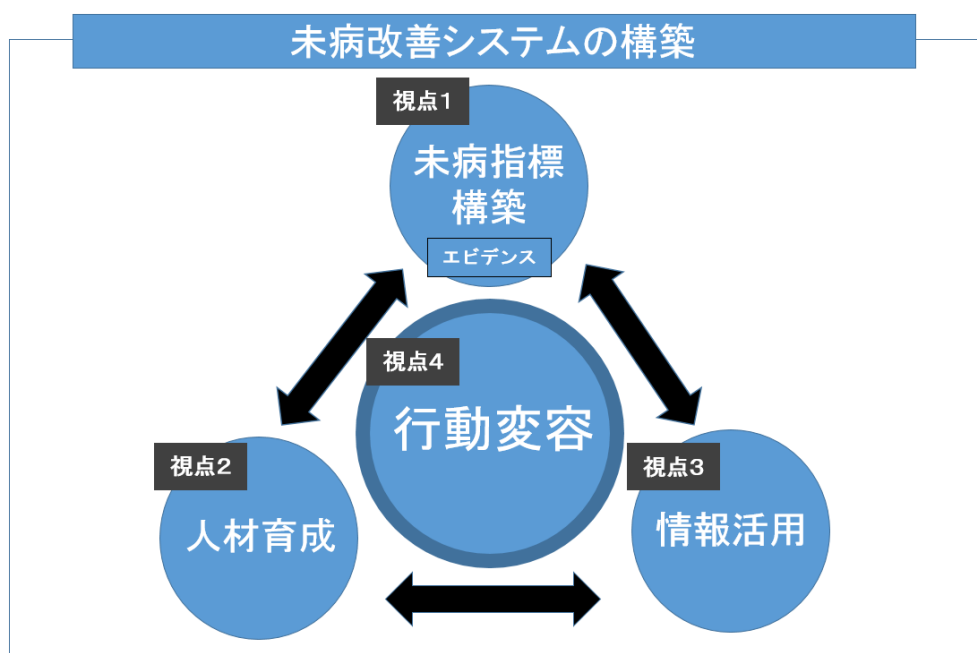
- 未病指標の活用など、個人の適切な支援につながる学問体系を確立し、地域における健康づくりやヘルスイノベーションのリーダーとなる人材の育成

【視点3：情報活用】

- IoT や AI を活用し未病指標を実装した商品・サービスの開発促進に向け、情報をビッグデータとして利用する仕組みの構築

【視点4：行動変容】

- 個人が未病指標などを利用して主体的に未病改善を実践する仕組みづくりや、健康に関するリテラシーを高め継続的な取組みを促すインセンティブの検討



3 プレーヤーの役割と行動目標

未病改善システムの構築に向けて、それぞれの主体（プレーヤー）が自分ごとと認識し、取り組んでいくべき役割と行動目標を整理しました。

個人

健康に関するリテラシーの向上と主体的な未病改善の実践

（行動目標）

- ・健康に関するリテラシーを高め、未病指標を実装した商品・サービスを活用して主体的に未病を改善
- ・人生100歳時代を見据えて、社会参加を含めたライフデザインを実践

企業

商品・サービスの質と企業マインドの向上

（行動目標）

- ・未病指標を実装した様々な商品・サービスを開発し、安全性を担保し有効性を明らかにして、個人のライフステージのニーズに応じて提供
- ・生産性と健康満足度を向上させる健康経営を進め、従業員やその家族の未病改善やライフデザインの実践を支援

専門家（医療関係者等）

専門的知識で個人をサポート

（行動目標）

- ・企業の商品やサービスの活用も含め、個人に身近なアドバイザーとして、未病指標に基づいて、生活全般にわたり幅広く関与し、指導

アカデミア

イノベーションの創出と次世代の担い手づくり

（行動目標）

- ・未病指標の構築や社会を変革する様々なイノベーションを持続的に創出するための研究を深化
- ・次世代を担う人材育成プログラムを構築し、地域における健康づくりやヘルスイノベーションのリーダーとなる人材を輩出

自治体

個人の未病改善をサポートする環境の整備

（行動目標）

- ・住民が地域の中で未病指標を活用して自然と未病改善の取組に参加できる場づくり
- ・企業等の商品・サービスの積極的活用により個人に最適な未病改善メニューを提供

(行動目標)

- ・個人の行動変容を促進するインセンティブを組み込んだ保険制度改革の推進、ビッグデータの積極的活用に向けた環境整備などを通じて持続的な社会システムを構築
- ・技術や商品・サービスの開発の促進に向けて、国家戦略特区やサンドボックス制度などの規制緩和を推進

(行動目標)

- ・国際社会で活躍する人材の育成を支援し、未病に関する取組を積極的に情報発信
- ・未病指標の国際標準化に向けたエビデンス研究と社会実装の促進

4 神奈川県になすべきこと

神奈川県は、「スマイル100歳社会」の実現に向け、新たな仕組みづくりをリードするとともに、このビジョンを実現するためのエンジンとして、以下の取組を進めます。

(取組の方向性)

- 目指すべき未来社会の実現に向けた県としての戦略の策定
- 各プレイヤーに対する働きかけと連携の強化

(具体的な手法)

- ・県のネットワークの活用による未病指標の構築
- ・新たな商品等の開発促進に向けたネットワークの強化
- ・地域（市町村）や職域（企業等）に最適な商品・サービスを導入するためのリビングラボなどの仕組みづくり
- ・ライフデザインの実践を促進する情報基盤の構築
- ・未病コンセプト及び未病産業の国際展開に向けたグローバルな連携の促進
- ・次世代を担う人材の育成やシンクタンク機能を担う教育機関の設置・運営

ME-BYOサミット神奈川2017協賛企業一覧(五十音順)

株式会社アイネット
アサヒ飲料株式会社
株式会社足柄グリーンサービス
味の素株式会社
アルケア株式会社
アンファー株式会社
イオンリテール株式会社
株式会社ウェルアップ
A I G ジャパン・ホールディングス株式会社
株式会社NTTドコモ
株式会社エムティーアイ
オムロンヘルスケア株式会社
花王株式会社
株式会社カネカ
株式会社カーブスジャパン
川本工業株式会社
株式会社クレディセゾン
KDDI株式会社
医療法人社団健育会
サイバーダイン株式会社
社会医療法人社団三思会
株式会社JTBコーポレートセールス
鈴廣蒲鉾本店
スルガ銀行株式会社
セコム株式会社
損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社
大和ハウス工業株式会社
タカナシ乳業株式会社
株式会社ディー・エヌ・エー
株式会社Tポイントジャパン
東京海上日動火災保険株式会社
TOTO株式会社
株式会社日本医療データセンター
日本調剤株式会社
株式会社白寿生科学研究所
株式会社ファンケル
富士通株式会社
富士フィルム株式会社
株式会社ブルックスホールディングス
株式会社ベネクス
株式会社三菱ケミカルホールディングス
ヤフー株式会社
株式会社横浜銀行

ME-BYOサミット神奈川2017後援団体一覧

内閣府
文部科学省
厚生労働省
農林水産省
経済産業省
公益社団法人神奈川県医師会
一般社団法人神奈川県歯科医師会
日本経済新聞社
読売新聞社
神奈川新聞社
t v k (テレビ神奈川)
一般財団法人バイオインダストリー協会